



ほふる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
(カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい)
【今月の一冊】希望のつくり方
玄田有史著 岩波新書
ホームページ URL <http://www15.ocn.ne.jp/~prime21/>

発行日 2015年5月1日 Vol. 151
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
ライフコンサルタント 渡邊敏徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

未来の日本

平成27年度がスタートして1ヶ月が経ちました。最近では“五月病”という言葉もあまり聞かなくなってきたように思いますが、新しく環境が変わった人たちには、精神的にも肉体的にも疲れてきたころではないでしょうか。

先日、ちょっとびっくりする話を耳にしました。第2次世界大戦以降に「消滅した国家」が約180もあるそうです。“国家”の定義にもよりますが、そんなにたくさんの国が無くなっているなどと想像もつきませんでした。

憲法改正の議論や安全保障のこともとても重要ですが、長い歴史と伝統のある最低でも約1500年は継続している日本はどんな国家になろうとしているのでしょうか……。

かつて繁栄を極めた地中海域の国々の歴史を見てみると、カルタゴはフェニキア人が建国した海洋国家で、現在のアフリカ大陸のチュニジアに位置していました。カルタゴは、世界一の造船技術を持ち、スペイン、シチリア島などの海外領土を支配していました。

そして、紀元前3世紀には地中海貿易により富を蓄え、ローマ帝国と並ぶ強国となりました。経済発展一筋で大国になったのですが、ローマの政治家の執拗な非難に対応できず、667年の繁栄国家は跡形もなく消滅してしまいました。どこか私たちの戦後から現在までの日本の歩みにとても似ているように感じてしまいます。

また、16世紀の西欧世界最大の貿易国家ベネチアは帆船の技術開発に努力せず海上輸送能力が低下し、新興諸国に出遅れることになってしまいました。さらに上層階級が栄華を維持するために結婚や子どもの増加を抑制し、18世紀には結婚適齢男子の66%が独

身であったそうです。現在の日本は72%です。国が繁栄し続けるには未来をどんなものにしていくか明確にし、具体的な行動の成果である一方、衰退した国家は例外なく用意周到に怠慢であった国家ではないでしょうか。

私たち人類は過去の歴史から大いに学ばなければいけませんね。



笑える人生

今年のNHKの大河ドラマは、吉田松陰の妹を描いています。

幕末から明治維新という時代の大きな変わり目に生きた人々は、いろんな意味で複雑な思いをされたのではないのでしょうか。

異国からの脅威は、鎖国をしていた日本人にとって、とても驚くことの連続であったと思います。

吉田松陰の松下村塾で学んだ一人に高杉晋作がいます。彼は幕末に騎兵隊を率いて明治維新を後押ししました。しかし、27歳という若さで亡くなりました。

自由奔放に生きた高杉晋作が死に際に詠んだ有名な辞世の句があります。

「おもしろきこともなき世におもしろく……」ですが、途中で息苦しくなった彼は言葉を継げなくなっていました。枕元にいた野村望東尼という女性が「すみなすものは心なりけり」と下の句を続けました。「おもしろく感じられるかは心次第だ」という意味ですが、この言葉を聞いて息を引き取ったそうです。

今をいきいきと「楽しく行動する」こと、そして、今を「楽しいと感ずる」ことはとても重要なことです。「あなたは人生を楽しんでいますか」と聞かれたら、笑顔で“はい”と答えられる人生にしたいものです。



【座右の銘にしたい名言】

運命に定められた道を進むとき、なすべきことを愛する
とき、人は内に秘められた素晴らしい力を発揮する。

(マーシャ・シネター/組織心理学者)